



2022年10月7日

各位

会社名 株式会社ハイデイ日高
代表者の役職名 代表取締役社長 青野 敬成
(コード番号 7611・東証プライム)
問合せ先 経営企画部長 石田 淳
(TEL. 048-644-8030)

2023年2月期第2四半期業績予想と実績の差異に関するお知らせ

及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2022年4月7日に開示いたしました2023年2月期第2四半期(累計)業績予想と本日開示の実績値との間に差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、2023年2月期通期業績予想を修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2023年2月期第2四半期(累計)業績予想と実績値との差異(2022年3月1日～2022年8月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益(円)
前回発表予想(A)	17,500	800	1,350	800	21.06
今回実績(B)	17,606	△195	1,637	1,033	27.20
増減額(B-A)	106	△995	287	233	—
増減率(%)	0.6	—	21.3	29.1	—
(ご参考)前期実績 (2022年2月期第2四半期)	11,396	△2,602	△508	△343	△9.03

2. 2023年2月期通期業績予想の修正(2022年3月1日～2023年2月28日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	37,500	1,800	2,600	1,700	44.76
今回修正予想(B)	37,500	400	2,200	1,400	36.86
増減額(B-A)	0	△1,400	△400	△300	—
増減率(%)	0.0	△77.8	△15.4	△17.6	—
(ご参考)前期実績 (2022年2月期)	26,402	△3,523	2,586	1,579	41.58

3. 業績予想と実績との差異並びに業績予想修正の理由

外食産業につきましては、3月21日に「まん延防止等重点措置」が解除されたのち回復傾向にあったところ、7月以降に新型コロナウイルスの変異株の感染者が急増し、再び外食を自粛する傾向が強まり足踏み状態となりました。8月には感染者数もピークアウトしたこともありお客様数は回復傾向にあります。

ラード、小麦粉等の購入単価の上昇や光熱費、物流費および厨房機器等の設備費用の高騰など店舗運営コストの増加に加え、人材不足による平均時給の上昇等もあり人件費も増加しております。このような状況のなか、売上高につきましては、季節商品・新商品の投入等により、ほぼ期初予想にて着地いたしました。一方、販売費及び一般管理費は期初予想時の対売上高比率67.2%に対し5.7%増の72.9%となりました。一方、営業外収益には雇用調整助成金（4億53百万円）及び時短営業協力金収入（12億63百万円）等を計上しました。この結果、当第2四半期累計期間の売上高は、期初予想に対し0.6%の増加、営業利益については△1億95百万円、経常利益は16億37百万円、四半期純利益は10億33百万円となりました。

引き続き新型コロナウイルスの影響が予断を許さない状況ですが、2023年2月期通期の売上高については、コロナ禍で短縮した店舗営業時間の延長、各種コストの増加を受けた一部商品の値上げ（8月26日に日高屋業態にて実施済）、冷凍自動販売機の拡充、季節商品・新商品の継続的な投入及びキャッシュレス決済を活用した販売促進キャンペーンの実施等により、ほぼ期初予想通りを見込みます。

タッチパネル式オーダーシステムの拡充、店舗オペレーションの改善により人件費の抑制に引き続き取り組んでまいりますが、食材価格や光熱費等の経費は引き続き上昇傾向が続くものと予測し、利益額は前回予想を下回る見込みとなります。通期営業利益4億円（前回予想比77.8%減）、通期経常利益22億円（前回予想比15.4%減）、当期純利益14億円（前回予想比17.6%減）に修正いたします。

※ 上記業績予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成しており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以上